

# 減速の兆候を示す米国の景気回復

## ポイント① 企業景況感指数の低下

米国では新型コロナウイルスの感染再拡大が深刻化する中、景気は回復基調を維持しながらもそのペースは減速の兆候を示しているようです。

11月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業、非製造業とも前月より低下しました。製造業は10月に大きく上昇した後であり、依然高水準ですが、非製造業は2カ月連続で低下しました。飲食、小売、観光などの非製造業部門で感染再拡大に伴う活動制限再強化の影響が大きいことが伺われます。ただ、製造業、非製造業とも景況感指数は拡大/縮小の分岐点となる50を上回っており、景気回復基調が維持されているとは言えます。

## ポイント② 失業率の低下ペースが鈍化

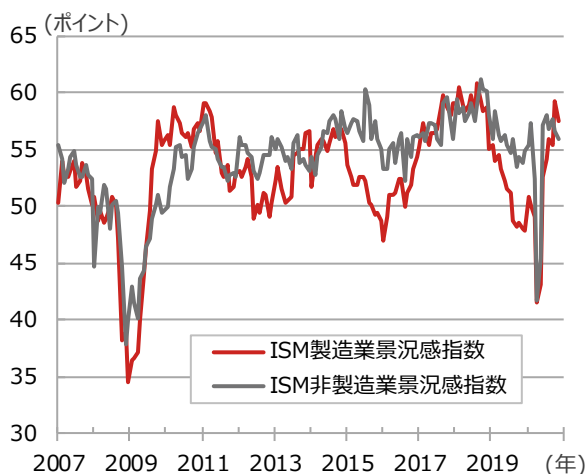
11月の米雇用統計によれば、7カ月連続して失業率が低下し、非農業部門の就業者数は増加しました。ただ、失業率の低下ペースも就業者の増加ペースも鈍化してきています。コロナ禍以前と比べて失業率は依然かなり高く、雇用回復の遅れは米国経済にとっての懸念要因です。

## ポイント③ 足元の景気と株式市場の乖離

12月15、16日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、こうした景気減速の兆候への対応が注目されます。一方、米株式市場は、新型コロナウイルスに対するワクチン開発の進展で先行きの経済正常化への期待が高まったことなどから堅調に推移しており、足元の景気情勢との乖離が大きくなっているようです。ただ、金融政策当局としては、企業や家計の景況感のさらなる悪化を防ぐためには、株式などのリスク資産の上昇を容認する姿勢を当面取り続けるものと考えられます。

図1：米ISM景況感指数

期間：2007年1月～2020年11月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の失業率と非農業部門就業者数

期間：2020年1月～2020年11月、月次

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
1月	3.6	63.4	15,221	21.4
2月	3.5	63.4	15,246	25.1
3月	4.4	62.7	15,109	-137.3
4月	14.7	60.2	13,030	-2,078.7
5月	13.3	60.8	13,303	272.5
6月	11.1	61.5	13,781	478.1
7月	10.2	61.4	13,957	176.1
8月	8.4	61.7	14,106	149.3
9月	7.9	61.4	14,177	71.1
10月	6.9	61.7	14,238	61.0
11月	6.7	61.5	14,263	24.5

(注) 労働参加率 = 労働力人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

12月11日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (12月速報)  
12月16日 米小売売上高 (11月)、米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。